

# HumanLink

先生の行動変様までをサポート!  
進化し続ける授業のために!!

## 授業レビューシステム

「生徒による授業アンケート+授業改善支援」パッケージ

もし、先生が次のように思っているなら、  
ぜひ検討ください。

- 授業アンケートを導入しなければいけないと思っている。
- 生徒の授業満足度を高める必要がある。
- 授業改善を学校全体で進めたい。
- 授業アンケートをしているが授業改善は進んでいない。
- 授業を改善してほしい先生の名前が頭に浮かぶ。
- 授業に自信を持つ先生を増やしたい。

### ヒューマン・リンクの3H Hope・Honesty・Human

(希望・誠実さ・人間)

ヒューマン・リンクは誠実さを一番大切にします。なぜなら、誠実さは人を動かすと信じ、人を動かすことが改革で一番大切なことだと考えるからです。ヒューマン・リンクは先生たちと共に誠実さと成果(希望)を追求するコンサルティング・ファームです。

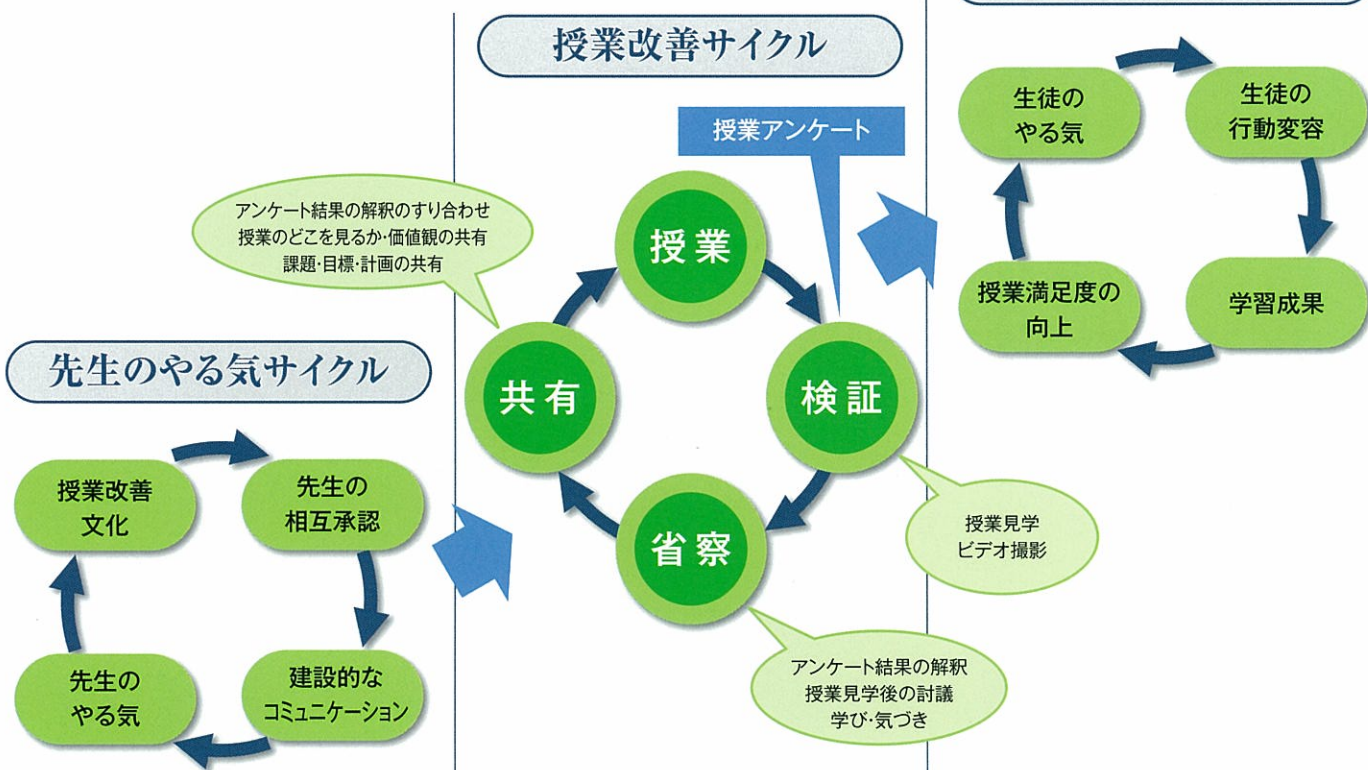


# なぜ授業アンケートが必要なのか？

授業アンケートは授業改善に前向きな組織づくりとあわせて考えましょう。



なぜ授業アンケートをする必要があるのでしょうか？それは、授業が生徒にとってどのように受け止められているかを確認するためです。授業において先生がたが意図しているとおりに生徒が受け止めているかを確認し、先生がたが気づかない改善のヒントを得るために授業アンケートをするのだと思います。ある先生は、「授業アンケートは、先生の授業力アップのために生徒が協力してくれているもの。なので、どのような結果で、何を改善しようと思うのかは生徒に伝えます。」とおっしゃいました。



## ●先生のやる気サイクル

こうした授業改善サイクルが機能するためには、授業アンケートを実施するたびに先生のやる気が向上するようなサイクルが回っていかねばなりません。そのサイクルとは、先生が自分の良い点について認められ(承認)、その結果お互いを高め合うような建設的なコミュニケーションが成立し、先生がたのやる気が高まり、授業改善をすることが当たり前の組織となるというサイクルです。したがって、授業アンケートを実施する際には、それを支える組織づくりもあわせて考える必要があります。

## ●授業改善サイクル

上の図を見てください。授業改善サイクルにおいて、授業アンケートは授業を検証するための一部分にすぎないことが分かります。つまり、授業アンケートをとるだけでは授業改善は成立しません。省察(リフレクション)のプロセス、つまりアンケートを通じての気づきや学びがあって初めて授業改善サイクルが成立します。そして、その気づきや学びが組織の中で共有されることで、よりダイナミックな授業改善の動きとなります。

## ●生徒のやる気サイクル

授業が改善されれば、授業の満足度が高まります。それは生徒の理解・関心・意欲を高めます。するとやる気を出して、行動(予復習)が変わってくる生徒も出てきます。その結果、学習成果も高まると考えられます。

生徒の声に応え、  
生徒との信頼関係を  
築くために  
授業アンケートが必要。

# ヒューマン・リンクの授業アンケート

## 個人別・クラス別結果

### 1 授業満足度

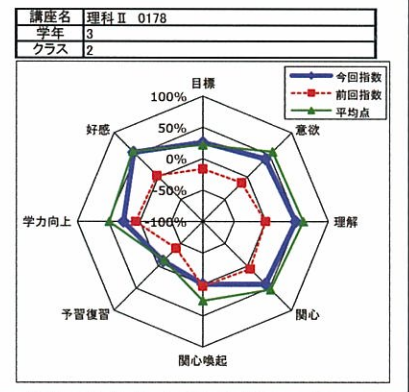
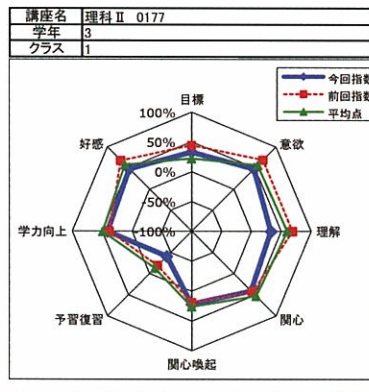
レーダーチャート

### 2 授業改善点分析表 (オプション)

### 3 自由記述回答入力

### 4 個人別

改善点レポート



### 1.レーダーチャート

クラスごとにどの領域の満足度が高いかというバランスが一目でわかるようになっています。

質問	理科Ⅱ(0101)				理科Ⅱ(0102)				理科Ⅱ(0103)				理科Ⅱ(0104)				教科合計	クロス結果					
	2年1組		2年2組		2年3組		2年4組		2年1組		2年2組		2年3組		2年4組			個人	全体	目標	意欲	理解	関心
1	★	23	★	19	★	14	★	10	★	37	★	23	★	27	23	27							
2	★	6	★	7	★	6	★	28	★	30	★	21	★	14	21	14							
3	★	29	★	8	★	29	★	5	★	17	★	9	★	33	29	33							
4	★	16	★	9	★	29	★	4	★	14	★	7	★	26	16	26							
5	★	7	★	23	★	7	★	23	★	2	★	7	★	10	7	10							
6	★	10	★	7	★	23	★	3	★	10	★	4	★	15	10	15							
7	★	23	★	5	★	16	★	10	★	10	★	34	★	13	23	44							
8	★	1	★	3	★	6	★	19	★	2	★	7	★	3	1	3							
9	★	16	★	5	★	16	★	19	★	10	★	34	★	10	16	37							
10	★	2	★	6	★	5	★	16	★	4	★	14	★	4	2	4							
11	★	6	★	19	★	6	★	19	★	7	★	24	★	10	6	37							
12	★	1	★	3	★	8	★	26	★	14	★	3	★	11	1	11							
13	★	8	★	26	★	5	★	16	★	6	★	21	★	9	8	28							
14	★	3	★	10	★	4	★	13	★	3	★	19	★	5	3	22							
15	★	4	★	13	★	4	★	13	★	8	★	28	★	6	4	22							
16	★	2	★	6	★	9	★	29	★	5	★	17	★	5	2	19							
17	★	5	★	16	★	2	★	6	★	6	★	21	★	9	5	33							
18	★	3	★	10	★	5	★	16	★	3	★	10	★	5	3	19							
19	★	1	★	3	★	5	★	16	★	2	★	7	★	6	1	22							
20	★	1	★	3	★	4	★	13	★	3	★	10	★	6	1	22							
21	★	13	★	3	★	4	★	13	★	10	★	8	★	28	13	22							
22	★	1	★	3	★	4	★	13	★	1	★	3	★	3	1	11							
23	★	6	★	19	★	3	★	10	★	4	★	14	★	11	6	41							
24	★	2	★	6	★	8	★	19	★	2	★	7	★	6	2	22							
25	★	6	★	19	★	6	★	19	★	2	★	7	★	7	6	26							
26	★	2	★	6	★	8	★	19	★	5	★	17	★	2	2	7							
27	★	5	★	16	★	6	★	19	★	3	★	10	★	6	30								
28	★	1	★	3	★	5	★	16	★	5	★	17	★	4	1	15							
29	★	3	★	10	★	4	★	13	★	2	★	7	★	8	3	30							
30	★	3	★	10	★	4	★	13	★	2	★	7	★	3	11								
31	★	3	★	10	★	4	★	13	★	4	★	14	★	12	3	44							
32	★	6	★	19	★	4	★	13	★	4	★	14	★	3	11								
33	★	6	★	19	★	4	★	13	★	1	★	3	★	10	6	37							
34	★	2	★	6	★	6	★	19	★	6	★	21	★	2	7								
35	★	3	★	10	★	3	★	10	★	2	★	7	★	6	3	30							
36	★	3	★	10	★	6	★	19	★	1	★	3	★	5	19								
37	★	3	★	10	★	4	★	13	★	3	★	10	★	7	26								
38	★	2	★	6	★	3	★	10	★	1	★	3	★	4	15								
39	★	1	★	3	★	3	★	10	★	2	★	7	★	6	30								
40	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★								

1. 教科ごとに授業満足度と授業技術をクロスで分析

(表の右 クロス結果①～⑤)

2. 「理解」「関心」など指数ごとに重要な授業技術を確認

(表の下 選択肢の質問文)

3. それぞれのクラスで重要な授業技術を絞り込んで確認

(表の左 各クラスごとの結果)

4. 先生の自己回答とのズレを確認

(先生：★生徒ボリュームゾーン：網掛け)

個人	全体	目標	意欲	理解	関心	予復習	学力向上
1	23	27					
2	21	14					
3	29	33					
4	21	10					
5	22	21					
6	14	9					
7	23	44					
8	10	8					
9	25	34					
10	13	7					
11	25	34					
12	14	11					
13	24	28					
14	14	8					
15	19	30					
16	16	19					
17	19	17					
18	14	10					
19	20	23					
20	14	14					
21	18	19					
22	13	7					
23	14	22					
24	10	8					
25	19	31					
26	14	8					
27	13	7					
28	14	22					
29	10	8					
30	19	31					
31	14	8					
32	18	24					
33	14	8					
34	14	19					
35	13	7					
36	14	15					
37	8	6					
38	12	17					
39	9	6					
40	1	1					

授業アンケートの結果は、先生・クラスごとに集計します。

## 教科別結果

### 5 学年推移

(オプション)

### 6 分析報告書

### 2.授業改善点分析表

「理解」「関心」「意欲」「予復習」「学力」それぞれを高めるために重要な授業技術が①～⑤で示されます(図の右)。先生の自己回答(★)と生徒の回答ボリュームゾーン(網掛け)が一致しているかを確認できます。

### ●分析報告会・授業改善ワークショップ

- ▶ 教科ごとの改善点を明確にし、課題を共有
- ▶ 具体的な改善アクションを導く
- ▶ 教師の同僚性を高めるよう設計



### 参加者の声

「生徒を育てるためには我々は勉強し、向上していかなければならない。今日はありがとうございました。」 (2009年冬)

教科会議が定期的に行われるようになった。これまであまり開かれなかった。そして、どうしたら授業改善がなされるかという話し合いがなされるようになってきた。さらには、各授業が変わってきた。毎年の結果もそれにとまって向上している。継続してやっていくことがとても大切であると思われる。

(A校 学校長)

教員が生徒の自由記述回答をとっても意識してみるようになった。生徒がどんな感想を持っているのかを楽しみにしている教員もいる。また、クラスによって結果が異なる場合、なぜ、それほどクラスによって結果が異なるかを気にかけるようになった。気にかけることで結果が良くなってきているように思われる。

(B校 教務部長)

よく考えられた細かな内容で構成された項目で調査をするため、集計結果を教員が真剣に受け止めている。集計結果がいつ返ってくるかということに気をつける教員が多い。また、読むのが恐ろしかった自由記述を前向きに読もうとする姿勢が醸成された。継続してやれば授業が改善されるのは当然の結果であると思われる。

(C校 学校長)

授業アンケートの結果を積極的に受け止めて、授業改善に結びつける教員が格段に増えた。各教科のアンケート結果が見違えるように良くなった。

(D校 学校長)

校長、教頭と現場のリーダー何人かで一緒にセミナーに参加した。バラバラにセミナーに行かず、一緒に行くことも合意形成に役立ったと思う。授業アンケートを行ったことで、少しずつ教員が動き出した。

(E校 元校長)

一番の変化は教科会の運営が変わったこと。これまでの教科会は試験範囲や教科書の選定が主なテーマだったが、今は週に1回、授業改善に関することのみを話し合う時間がある。また、その内容を記録し、教頭の横に置いてあるファイルに綴じていくようにしている。

(F校 校長)

夏の授業アンケートの結果と次回の目標を生徒に宣言(マニフェスト)するようにしている。自分が授業アンケートを意識している、という姿勢を見せるようにしている。

(F校 教務主任)

誰が行ってもうまくいかないクラスで、まず生徒とのコミュニケーションから見直した。前例に縛られず、「どうすれば授業満足度を高めることができるか」を考え、試した。結果、予習をして授業に臨む生徒が増えた。

(G校 教務主任)

私学は公立と違って、教員の移動がない。こうしたアンケートをとることで、違った視点から自分たちの取り組みを考えなおすことができた。

(H校 教務主任)

自分たちでアンケートをやってきたが、クロス集計のように必要だが手間のかかる分析まで手が回らない。集計で力尽きてしまい、授業の改善まで手が及ばない。

(I校特進コース教頭)

現場から授業改善が必要だ、という声が上がった。授業改善について最もよく考えられている、と考えられるのがヒューマン・リンクのアンケートだった。集計から分析データの作成までを委託することで教員が改善アクションに集中することができた。

(J校授業改善委員会リーダー)

### お問い合わせ

「授業アンケートについて情報がほしい」「他校でどのように実施しているか知りたい」「実際にどのような成果が出ているかを知りたい」など、授業アンケートに関するお問い合わせはお気軽に下記までご連絡ください。

授業レビューシステム相談係 巴(ともえ)、新谷(しんたに)  
電話 075-212-7015 Mail: tomoe@humanlink.info  
shintani@humanlink.info